

事業番号	373
------	-----

平成26年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	中部公民館施設管理事業						担当部	教育委員会事務局		
	会計区分	一般会計			事業類型	法定受託系	担当課	生涯学習課			
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降		担当係	社会教育係		
	総合計画 分野別計画	主目的	4 文化スポーツ		16 生涯学習		2 学習活動を支援します				
		副目的									
	予算区分	款	10	項	5	目	2	大	3	中	1
	根拠法令・個別計画	小牧市公民館の設置及び管理に関する条例、小牧市公民館の管理に関する規則									
	目的 (対象をどの様な状態にするのか)	中部公民館は、商工会議所、子育て支援センター、プラネタリウムの複合施設で、広く市民に利用されており、公民館の施設管理を適切に行うことで、利用者の利便の向上を図る。									
	内容 (手段)	<p>■25年度実施内容 指定管理者(施設活用協会)へ管理運営を委託 施設設備等管理 施設利用の受付・貸出事務 プラネタリウム事業の企画・運営・投影作品制作支援 職員は、管理運営委託事務、プラネタリウム運営委員会の運営事務。</p> <p>■25年度直接経費の内訳 管理運営委託料(82,334,458円)、駐車場用地借上料(6,770,918円) 修繕料等(1,006,900円)</p> <p>【その他財源の内訳】 公民館使用料(3,485,467円)、プラネタリウム使用料(931,700円) 商工会議所負担金(11,761,649円)、資料複写代金(23,590円)</p> <p>■26年度直接経費の内訳 25年度と同様に実施する。 管理運営委託料(82,754,000円)、駐車場用地借上料(6,770,918円) 修繕料等(11,500,000円)手数料等(70,000円)</p>									
	受益者負担	有									

		単位	H23決算額	H24決算額	H25決算額	H26予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	86,476	94,008	90,112	101,095	
		正職員	従事者数	人	0.11	0.11	0.11	0.11
			人件費	千円	578	578	578	578
		その他職員	従事者数	人	0.01	0.01	0.00	0.00
			人件費	千円	183	10	0	0
		費用合計	千円	87,237	94,596	90,690	101,673	
	対前年比	%		108.4	95.8	112.1		
財源	一般財源	千円	72,191	79,116	74,488	81,230		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	15,046	15,480	16,202	20,443		

業	活動指標名	単位		H23	H24	H25	H26
	績	開館日数	日	目標	—	—	—
実績				309	309	307	
中部公民館申請件数		件	目標	—	—	—	—
			実績	2,296	2,379	2,308	
プラネタリウム投影回数		回	目標	—	—	—	—
			実績	734	678	702	
成果指標名	単位		H23	H24	H25	H26	
中部公民館利用人数	人	目標	—	—	—	—	
		実績	40,968	41,390	38,833		
プラネタリウム利用人数	人	目標	—	—	—	—	
		実績	22,464	18,217	20,655		

事業の自己評価	平成25年度の実施結果	事業の達成状況	公民館の施設の安全管理、会場の貸し出しを円滑に実施した。また、プラネタリウムを拠点に各種行事を開催するとともに、小学生の学習教材に対応した学習番組や幼児向け番組を自主制作し、プラネタリウムの利用者は、前年度と比較して増加した。冷却水ポンプの取替え及び冷温水ポンプ等のオーバーホール修繕を実施した。				
		事業実施における課題	中部公民館が開館してから30年が経過しており、施設、設備も老朽化し、修繕等が増加している。				
		事業を縮小・廃止したときの影響	公民館の安全管理や設備の修繕が滞り、安全に施設を利用することができなくなる。				
	平成26年度の改善内容	26年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	老朽化している1台のエレベーターの改修を行い、残り1台は乗場を塞ぐ工事を行う。				
	平成27年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)			
	判定理由	公民館を安全に利用してもらうために、必要である。					
	27年度以降の改善案	設備の故障等に適切に対応し、計画的に設備の更新等を図っていく必要がある。					

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。 引き続き指定管理者のモニタリングに努め、利用者アンケート結果を活かすなど利用者の満足度が高まる施設運営に努めること。